217－218.
4）日本整形外科学会診療ガイドライン委員会．大腿骨頚部／転子部骨折診療ガイドライン 2005.

ほっと
ぷらざ

膝関節内注入の私の工夫

どこの診療所でも変形性膝関節症に対する関節内注射（関注）は最も多い外来処置の一つであろう．主にはヒアルロン酸製剤の注射であるが，時にはステロイド剤もある．ステロイド剤の関注は何と言っても感染を起こしてはならない．前夜風呂に入っていただく，ディスポ製剤を用いること，消毒をしたらしばらく待つこと（最低10秒，忙しい時にはなかなかこれ以上待てない），消毒前にアルコール綿球でこするようによく拭くことを心がけている．開業16年間で３回ヒヤッとしたことがあったが，幸い大事には至らなかった．綿球で拭きだしてからかれこれ４年経つが１例もヒヤリは起こっていない．

一方ヒアルロン酸製剤の関注は，関節内に正確に注入しないと強い痛みを起こし，すぐには患者は立って歩けないほどである．とくに粘度の強い高分子ヒアルロン酸製剤は関節内注入の手応えが難しいのでより注意深い指の感触が必要である．針刺入時まず皮膚の抵抗があり，続いて関節包の分厚い抵抗を感知し，それを貫通すればすっと抵抗がなくなるので，関節内に確実にはいったことを確信できる．私はその微妙な感触を感知するように，皮膚を貫いたら母指のみでシリンジを押して注入するようにしている．少量注入し，必ず患者に痛みがあるか否か尋ねてから全量注入するようにしている．もし少しでも痛みがあったり抵抗感があれば，強行せずに直ちに皮下まで抜いて，再度入れ直すことにしている．さあ今日も100発100中であることを祈って外来診療を頑張ろう．

麻生整形外科クリニック　麻　生　邦　一